

山口県立華陵高等学校舞台芸術部 令和五年度上演作品

あした ほんばん

はなおか まい

『明日、本番なんですけど』作・華陵舞

【受賞歴等】

第四〇回周防地区高等学校演劇発表会（最優秀賞）

第四二回山口県高等学校演劇大会（優良賞）

第十三回ふくやま高校生春の演劇フェスティバル参加

【上演人数】

十三人

【あらすじ】

文化祭ステージ発表前夜。わがまま放題のダンス同好会に振り回されて、裏方担当の演劇部たちはもう発狂寸前。文化祭後にもらえる報酬を心の支えに、何とか耐え忍んでいた。そんな中、演劇部部室にひとりの不審者が侵入する。彼は廃部に追いやられたことに恨みを募らせている元生物部で、実は演劇部の新入部員も彼が送り込んだスパイだった。度重なる文化祭妨害運動、失踪した生徒会長、届かない新しいスピーカー、さらに停電で音源データまで消失し、どんどん窮地に追い込まれていく。果たして彼らは明日のステージ発表本番を迎えることができるのか……？

【上演許可申請先】

上演を希望する場合は、karyobutage.since1996@gmail.comへ左記を明記のうえ、ご連絡ください。

- ① 上演作品
- ② 目的（催物名、主催者名、会場等）
- ③ 公演日、上演回数
- ④ 対象観客（一般公開・配信の有無）
- ⑤ 入場料（有料の場合は金額も）
- ⑥ 担当者名および連絡先

※著作権使用料の入金先などは折り返しご連絡いたします。

【登場人物】

演劇部部长

演劇部2年生

演劇部1年生Ⅱ生物同好会スパイ

生徒会副会长

元生物部（現生物同好会）

ダンス同好会リーダー

ダンス同好会メンバーA

ダンス同好会メンバーB

ダンス同好会メンバーC

生徒会1年生

新聞部

オカルト研究会

生徒会長

【1】 侵入者

文化祭1日目夜。ハナオカ高校演劇部の部室。文化祭のステージ発表の準備ため部員たちは出払っていて誰もいない。演劇部が芝居に使うために長年かけてあちこちから借りパクしてきたガラクタの山（借りパク山）がそびえ立っている。

ドアが静かに開き、元生物部が周囲をうかがいながら入ってくる。見るからに不審者。ドアを閉め、室内を物色し始める。演劇部の借りパク山に積まれたものを手にとっては、いちいち「なんだこれ？」という反応。とにかく変なものがいっぱいある。ひとしきり見て回ってから、カバンの中からスプレー缶や嫌がらせにつかうビラ等が入ったビニール袋を取り出す。スプレー缶をカシャカシャ振ったりしながら、どんなふうにいやがらせ行為をしてやろうかと思案している。

【2】 演劇部のさぼり

部室の外から演劇部の声が聞こえる。元生物部は気配に気づいて、広げていたいやがらせの道具をかき集め、借りパク山の陰に身を隠す。演劇部部长が部室に入ってくる。疲れ切った様子で大きなため息をつき、借りパク山のふもとからおもむろに布団セットを引っ張り出すと舞台中央にそれを敷いて、横たわる。元生物部は借りパク山の陰からその様子を戸惑い気味にうかがっている。様子を覗き込もうと身を乗り出そうとしたところで、演劇部2年が部室に入ってくる。元生物部は再び身を隠す。

演2年 （部屋の電気をつけて、就寝中の演劇部部长を見つけろ） あ！ 先輩ズルいですよ！

演部長 （けだるそうに） あー？

演2年 一人だけサボって！

演部長 そういってお前はどうしたんだよ。

演2年 サボりに来ました。

演部長 お前もかよ。

演2年 だってダンス同好会の連中、練習始めちゃってリハーサルにならないし。

演部長 それな。

演劇部部长と演劇部2年、布団を奪い合っている。

演2年 今日いつ終わるんですかね。

演部長 あいつらの気が済んだらだろ。

演2年 夜が明けちゃいますよ。見て下さいよ、このQシート（ポケットからQシートを出して見せる）ダンス同好会の照明Q、リハ中にどんどん増えて六十もある！ 音響は？

演部長 六十三Q。

演2年 やりたい放題ですね。

演部長 「例のアレ」を手に入るまでの辛抱だ。

演劇部2人、なんだか悪い顔をしてにやにやしてる。借りパク山の後ろで元生物部が聞き耳を立ててる。

演2年 文化祭後は「例のアレ」を手に入れて、大会準備に専念ですね。

演部長 あれ？

演2年 どうしました？

演部長 ここに入れてた堅あげポテト知らない？

演2年 知りませんよ。

演部長 おつかしいなあ。最近よくものがなくなるんだよな。

演2年 もしかして、部室荒らしかも。

演部長 部室荒らし？

演2年 最近、何者かが文化部の部室荒らし回ってるって。スプレーで落書きしたり、脅迫めいたビラ撒いて。
演部長 なにそれやばくね。

演2年 だから、うちも。

演部長 （ちよっと考えて） 部室荒らしが堅あげポテト？

演2年 違うか。

演部長 違うだろ。あーアタシの堅あげポテトー。

演2年 そんなことより先輩、脚本書けました？

演部長 聞くな。

演2年 書けてないんですか！

演部長 ……。

演2年 大会来月ですよ！

演部長 わかってるよ！

演劇部部长と2年ギャアギャアと騒いでると、演劇部新人（スパイ）が部室にやってくる。

スパイ あのお、先輩。

演2年 はいはいはいはい！ どうしたのかな後輩くん。この先輩に話してごらん。

演部長 わかりやすい先輩風。

演2年 初めての後輩なので！（スパイに）ねー♪

スパイ あー、はい。（愛想笑い）

演2年 ねー♪（満面の笑み）

スパイ あ、それより、なんかダンス同好会が、照明の変更をしたいって言ってて。

演部長・2年 （奇声を上げる）

スパイ （びっくり）

演2年 （ダンス同好会に対する怨嗟で引きつりながら）すすすでに朝から灯体3本も追加し、照明Qは六十まで膨れ上がっているというのにさらにへへへ変更をしたいといってるんだねあの鬼畜集団がががが。

演部長 （ダンス同好会に対する怨嗟で引きつりながら）おおおちつけ、アタシたちはなんとかしてこの難局を……。

生徒会副会長も続いて部室にやってくる。

副会長 ねえ、ダンス同好会が音響まだ変更できるかって言ってるんだけど。

演部長・2年 （奇声を上げる）

演部長 （目がヤバイ）ダメだ無理だ殺そう。

借りパク山に向かっていく演劇部2人。元生物部逃げ隠れる。

演劇部2人は無言で凶器を構えている。

副会長 ちよちよちよ！ 物騒！ 物騒だから！

スパイ 目がヤバイです！

副会長 演劇部には無理言って申し訳ない！ 「例のアレ」、ちゃんと用意してるから！

副会長の言葉を聞き、演劇部部长と2年生一時停止。次第に冷静さを取り戻していく。隙を見て副会長とスパイが凶器を取り上げる。

演部長 「例のアレ」、これが終わったら「例のアレ」……。

演2年 これが終わりさえすれば「例のアレ」……。

演劇部部长と2年生はぶつぶつとつぶやきながら、退場。

副会長 （ため息）ありやだいぶキテるなあ。

スパイ 「例のアレ」ってなんですか？

副会長 え？

スパイ 「ちゃんと用意してる」って。

副会長 あー、そのへんは先輩たちに直接聞いてもらって。

スパイ はあ。（凶器を元の場所に戻す）

副会長 しかし君も大変だね。

スパイ え？

副会長 君でしょ？ 今週入部した1年生って。

スパイ はい。

副会長 入っていきなり文化祭準備に駆り出されちゃって、なんか申し訳ないね。

スパイ （布団を片付けながら）まあむしろそれが目的っていうか。

副会長 え？

スパイ あ、（しまった）いや、思ったより長時間なのでびっくりしました。

副会長 今回は特に気合い入ってるからね、ダンス同好会。

スパイ （ちよつと考えてから）あの、気になってたんですけど。

副会長 なに？

スパイ ステージ発表って「今年から部活動以外は出られなくなった」って聞いたんですけど。

副会長 ああ。

スパイ ダンスは同好会なのに特別扱いなんですか？

副会長 それは……。

【3】スピーカーの未着と生徒会長の不在

生徒会1年生が手紙を手に登場。

生1年 副会長。

副会長 見つかった？

生1年 （首を横に振る）いえ。

副会長 どこ行ったんだあの人は。

生1年 （首をかしげる）さあ。

副会長 で、スピーカーは？

生1年 （首を横に振る）まだ。

副会長 まだ届いていないの？

生1年 （首を縦に振る）はい。

副会長 今日で間違いないんだよね？

生1年 （首を縦に振る）はい。

副会長 じゃあなんでまだ届いていないの。

生1年 私に言われても。

スパイ スピーカーがどうかしたんですか？

副会長 体育館のスピーカー、音割れひどいでしょ。

スパイ めっちゃバリバリってますよね。

副会長 だから新しいスピーカー注文してるんだけど。

スパイ それがまだ届いてないんですか？

副会長 う。

スパイ ステージ発表明日ですよ。

副会長 深い事情があるのよ。（生徒会1年生をみる）

生1年 （不服そうに）私のせいですか？

副会長 （ぐっとこらえて）スピーカーは今日必要なんだよね。で、今日必要なものの配達指定日を、今日にしちや

つたらさ、もう間に合わないよね。

生1年 （不服そうに）でも生徒会長がそれでいいって。

副会長 （ぐっとこらえている）

スパイ 生徒会長は？

副会長 午後から見当たらなくて。

スパイ え、いないんですか。

生1年 あ、これ。（手紙を差し出す）

副会長 なにこれ。（受け取る）

生1年 生徒会室においてありました。

副会長 手紙？（手紙を開く）

スパイ （副会長の後ろから手紙をのぞき見る）「探さないでください」？

副会長 （ぼそりと）あのクズが。

スパイ 副会長さん？

副会長 （ハツとして）ほかにはなんかなかったの？

生1年 あ。

副会長 なに。

生1年 箱。

副会長 箱？

生1年 なんか「ぼうず」って書いてある箱が。

間

スパイ スピーカーじゃないですか？ それ。

生1年 え？

副会長 とりあえずそれ早急に持ってきて？

生1年 分かりましたー。

生徒会1年生退場。

副会長 （深いため息）

スパイ 大変ですね。

副会長 ……わかってくれる？

スパイ はあ、まあ。

副会長 スピーカーは届かない、模擬店のテントは足りない、ミスプリでパンフは全部刷り直し。そのうえ、部室荒らしまで……。

スパイ 部室荒らし？

副会長 最近、文化祭妨害運動だなんて新聞部の連中が煽り立てて。もう正直無理。

【4】リーダーの松葉杖

演劇部部长、演劇部2年、ダンス同好会リーダーが言い争いをしながら登場。ダンス同好会リーダーは松葉杖をついている。

演劇部長 無理無理、絶対無理。

演2年 いまさら仕込み直しなんて絶対無理ですよ。

リーダー そのくらいやってくれたっていいでしょ。（副会長を見つけて）副会長！ 演劇部が応じてくれないんだけど！

演劇部長 （副会長に）あんたからも言ってやってよ。これ以上は無理。

副会長 （リーダーに）演劇部がそう言ってるなら、これ以上は……。

リーダー 最後のステージなの。絶対妥協なんてしない。

副会長 気持ちわかるけど……。

リーダー （突然大げさによるめき、妙に演技がかった喋り方で）あああ、痛い！ 先日、骨折した右足が痛い！（ちらりと副会長を見る）

副会長 え？

リーダー 骨折さえなければ！ 先月、大会を棄権しなくて済んだのに！ あの日、あの階段に、誰かが荷物を置いていなければ、ああ、一体誰があんなところに荷物を放置していたの。

副会長 （ギクリ）あ、あれは……。

リーダー （ちらりと副会長を見てから大げさに）痛い痛い。

副会長 （リーダーからのプレッシャーに耐えきれず）演劇部さん。
演部長 断る。

リーダー （さらに大げさに）ああああああ。

副会長 （さらに必死に演劇部部长にすがるように）そこをなんとかあああ！

演部長 うわー！（リーダーに）お前やり方がこすいんだよ！

リーダー （っーん）

演部長 キイイ！

副会長 「例のアレ」！

演部長 （「例のアレ」というキーワードにヒクリとする）

副会長 いま1年が取りに行ってます。

演部長 へー。（そわそわ）

副会長 （部長の耳元でいやらしく囁くように）めっちゃいいやつですよ。

演部長 （悪い顔で）約束、守ってもらうよ。

副会長 （悪い顔で）もちろん。

リーダー ちよつと、やってくれんの。

副会長 （演劇部の方を見ながら）やってくれるよね。

演部長 しかたねえな。

リーダー っしやあ！ じゃ、そういうことで、よろしく〜♪

ダンス同好会リーダーは意気揚々と部室を出て行く。

スパイ なんか、当たり屋みたいですね。

演部長 おいはぎだろ、あれは。

スパイ いいんですか、あれ。

副会長 （苦笑）まあ、いまあんな感じだけど、実際あの子たちかなりかわいそうだからさ。

スパイ 正直そうは見えなかつたですけど。

演劇部部长と2年生、借りパク山のふもとに行き、照明機材をいくつか見繕いはじめる。元生物部は見つからないように反対側に移動。

副会長 ダンス同好会って、去年も一昨年も、トラブルで大会棄権してるんだよね。

スパイ そうなんですか？

副会長 うん。それで、今年の大会は最後のチャンスって、受験勉強もあるのに、遅くまで毎日練習してて。

スパイ はあ。

副会長 だから今年も棄権するってなった直後はさ、なんかもう見てられなくて。せめて最後に、文化祭くらい、最後の晴れ舞台踏ませてあげたいじゃない。

演劇部部长、2年は機材を持って出て行く。

スパイ それで特別枠。

副会長 そう。

スパイ （ちよつと考えて）でもそれって結局、ケガの原因が副会長さんだったから……。

副会長 （焦って）ちちちちがうよ。私は生徒会として、あくまで純粹な善意で……。

演2年 （戻ってきて）後輩くん。ドラム持って来てくれる？

スパイ ドラム？

リーダー（袖から）副会長ー！

副会長（召使のように）はい！ ただいまあ！（退場）

演2年 そのの、巻いてある。

スパイ ああ。緑と赤のどっち……。 （隠れていた元生物部と目が合う）

演2年 一応両方。

スパイ、元生物部、見つめ合ったまましばらくフリーズ。元生物部、無言で借りパク山の後ろに隠れ直す。

演2年 どうかした？

スパイ （何事もなかったかのように） 何でもないです。

演2年 先行つとくね。

演劇部2年退場。

【5】元生物部

スパイは周囲に誰もいなくなったことを確認して扉を閉める。

スパイ （借りパク山に向かって） 出てきていいですよ。

返事がないので、借りパク山の方へ歩いて行くスパイ。元生物部、借りパク山の反対側から出てくる。なぜか半魚人の被り物。

スパイ （びっくりして悲鳴） ……先輩？

元生物 ういー、おつかれー。

スパイ なにそのへんな被り物。

元生物 （被り物を脱ぎながら） 裏にあったからちようどいいかなあとって。

スパイ つか何しに来たの。

元生物 部室荒らし。

スパイ 誰かに見つかったらどうすんの。

元生物 見つかってないじゃん。

スパイ 見つかってんじゃない俺に。

元生物 お前は仲間じゃん。

スパイ そういうことじゃなくて。

元生物 え、お前は俺のこと仲間って思ってくれてないの。

スパイ だから。

元生物 なに、俺の片思い？

スパイ あのね先輩。

元生物 やだやだそんなさみしいこと言わないで。

スパイ （遮って）先輩。

元生物 はい。

スパイ 俺いま、演劇部に潜入してるじゃん。

元生物 うん。

スパイ それ何のためか分かってる？

元生物 当たり前だろ。（熱を込めて）これは、生物部の復権をかけた闘いなんだ。俺たち生物部は長年の迫害のすえ、ついに部活動資格まで剥奪されてしまった。しかし一方で、この学校には既得権益を享受する一部の人間がのさばっている。俺たちはその事実を明らかにし、自由を取り戻す。そのためにお前はスパイとして不正の証拠を……。

スパイ その通りなのに、（スプレー缶やマスクを指して）なぜこんなことをしている。

元生物 お前が失敗した時のために、俺としてはプランBをだな。

スパイ 俺がいる間に部室が荒らされてたら、真っ先に疑われるの俺じゃん！

元生物 （少し考えて）あ！

スパイ （あきれて）先輩、そういうところですよ。

元生物 （しゅんとして）ごめん。……でも許せねえよな。

スパイ なにが？

元生物 ダンス同好会だけ特別枠って。俺が企画書持ってた時は同好会は帰って門前払いしやがったくせに。ステ
ージ発表は新入部員獲得のための貴重なチャンスなのに！
スパイ そうですよね。

元生物 やっぱ「米水湖に生息する水生生物の研究」よりもっと派手なのじゃなきゃダメだったか。

スパイ 派手なやつ？

元生物 「カエルの生解剖ショー」とか。

スパイ 逆効果では。

元生物 くそおお！ 文化祭は文化部のための祭りだぜ。ダンスなんて、そんな運動部なんだか文化部なんだかわかんねーようなやつらがでかいツラしやがって。ここはやっぱりプランCだな。

スパイ プランC？

元生物 ちよつと耳かせ。

スパイ 誰もいないのにな？

元生物 いいから。

元生物部、スパイに耳打ち。

スパイ ええええ！

元生物 あいつらをステージにぶちまけて……。

スパイ 先輩。ヒトには、超えてはいけない一線があります。

元生物 （ハッとして）すまない。ちよつと冷静さを失ってたようだ。

スパイ そういえば、潜入してて分かったことなんですけど。

元生物 なに？

演劇部、演劇部たぶん俺除いて部員2人しかいないですね。

元生物 はあ？ 部活動は6人以上が条件だろ。それで俺たちは同好会に格下げになったんだぞ。

スパイ どうも、幽霊部員が何人もいるみたいで。

元生物 うわー！ やだやだ、やめてくれよ、俺怪談とかオカルト系ダメなんだよ。

スパイ ええ？

元生物 え？

スパイ 一応確認ですけど、先輩。幽霊部員っていうのは、普段活動に参加してないのに籍だけおいてる部員のこと

ですよ。

元生物 なんだよ。そういうことは早く言ってくれよ。

スパイ いやふつうわかるでしょ。

元生物 じゃあ幽霊はいないんだな。

スパイ （大きなため息）

元生物 やっぱいるの？

スパイ いないよ！

元生物 よかった！

スパイ よくないよ！ 演劇部は部員数水増しして廃部を免れてるんだよ！

元生物 なんだって！ そんなの不正申告じゃないか！

スパイ ……なんか疲れてきた。

元生物 え、大丈夫？

元生物部、借りパク山の裏に戻り、たこ焼きの入ったビニール袋を持って来る。

スパイ とにかく、ここは俺一人で大丈夫なんで、誰かに見つかる前に、先輩は早く出て行ってくださいよ。

元生物 （袋をスパイに渡しながら）はいこれ。

スパイ なにこれ？

元生物 たこ焼き。

スパイ なんで？

元生物 今日昼めし食えなかったって言ってたから、腹減ってると思って。

スパイ 先輩。

元生物 なんだよ。

スパイ こういうところですよお。（うるうる）好きい。

元生物 よせやい恥ずかしい。（空き缶を蹴る昭和な動作）

スパイ 一緒に生物部、復活させましょうね！

元生物 おう！

【6】中身がない！

2人が感動的に抱き合おうとしたところで、副会長と新聞部登場。思わず元生物部とスパイは借りパク山の後ろに隠れる。

副会長 しつこいって言うてるでしょ。

新聞部 「文化祭妨害運動」について、いかがお考えですか？

副会長 お話することはありません。

新聞部 新聞部の調査では、「文化祭は格差の象徴」「文化祭の既得権益を許さない」等と書かれた脅迫文が投げ込まれたと……。

副会長 私から申し上げることはありません。

新聞部 「ステージ発表は部活動のみ」との方針変更は、「文化部によるイベントの独占」といわれてもしかたないですよね。

副会長 違います。

副会長はわずらわしそうに部室内をぐるぐるまわりながら、新聞部はそれを追いかけるようにぐるぐる回りながら問答してる。スパイと元生物部も見つからないようにぐるぐる回りながら隠れている。生徒会1年生が、スピーカーの箱を持って登場。

生1年 あの。

副会長 あ、スピーカー？ こっちじゃなくて体育館に持って行ってもらわないと。

新聞部 たとえば生徒会が誰かに便宜を図って見返りに何か……。

副会長 （新聞部に）そんな事実ありません。

新聞部 アンケートでは、全校生徒の約4割が文化祭に不満があると回答しています。
生1年 （副会長に） 気になることがあって。
副会長 （生徒会1年生に） どうしたの。

3人が会話している後ろで、元生物部がこそこそと退場。

新聞部 一連の騒動は現生徒会による文化祭運営の不透明さが招いた結果なんじゃないんですか。

副会長 （新聞部に） 私たち生徒会は、生徒の皆さんにこの文化祭を楽しんでもらえるように、知恵を絞って企画して、朝から晩まで必死になって走り回って働いているんです。それなのになんなんですかあなたたちは。他人の粗探しなんかしてないで、文化祭を盛り上げる記事を書いたらどうなんですか。邪魔するくらいなら帰ってください。

副会長、新聞部を追い払う。

副会長 （ため息）

生1年 なんがちよつとカッコよかったですね。

副会長 そう？

生1年 副会長が会長やればよかったのに。

副会長 やめてよ恥ずかしい。

生1年 なんですすか。

副会長 私は会長みたいな、人を引き付けるものないから。

生1年 会長はただの無責任野郎じゃないですか。

副会長 もともとはあんな人じゃなかったんだよ。

生1年 よくわかりません。

副会長 それより、はやくスピーカー体育館に持って行って。

生1年 そのことなんですけど。

副会長 あ、演劇部の台車借りていく？（台車を広げて）これ「生徒会」って書いてある。ん？ これも、あ、これも（つぎつぎ借りパクしているものを発見）。あいつらまた借りパクしてるな……。

生1年 軽いんで大丈夫です。

副会長 本当に？

生1年 むしろこんなに軽いものなのかなって。ちょっと持ってみてもらえます？

生徒会1年生、持っていた箱を副会長に渡す。

副会長 これは。（軽い。あまりに軽すぎる）

副会長、箱を床に置き、開ける。中身がない。現実を受け止めきれない副会長はうろろと、しばらく意味不明な行動を繰り返してから、深呼吸。

副会長 中身ないじゃん。（崩れ落ちる）

生1年 なんか軽いと思ったんですけど。

副会長 中身は。

生1年 わかりません。

副会長 横とか、机の下とか。

生1年 わかりません。

副会長 （声を荒げて）わかりませんじゃない！ ちゃんと探して来いって言うてるの！ 見つかなかつたらどうすんの！

生徒会1年生、副会長の剣幕に驚いて泣き出す。

副会長 （しまった、という様子で）ごめんごめん今のは私が悪かったごめん。

生1年 ううう……（泣いてる）

副会長 君を責めたかったわけじゃないの。よし。いったん生徒会室探してみよう。ほら、会長がその辺放置してるだけかもしれないから。ね。

副会長、スピーカーの箱をとりあえず借りパク山の一角に移動させてから、生徒会1年生を連れて退場。誰もいなくなったことを確認して、スパイが借りパク山から出て来る。

スパイ （借りパク山を見上げながら）借りパク……これ全部……？

借りパク山はうずたかくそびえたっている。スパイはポケットから携帯電話を取り出し、証拠写真を撮り始める。

【7】たこやきパーティー

演劇部部长戻ってくる。

演劇部部长 おい新人！ まだこんなところに居たのか！

スパイ （慌てて携帯をポケットに隠す）すみません。（ドラムリールを指しながら）なんか絡まっちゃってます！

演劇部部长 あいつまた適当に……（スパイが持っている袋を見て）お、たこ焼きじゃん。

スパイ （焦って言い訳）ああああ、ええと、クラスのやつに買って来てもらったんです！ 先輩たちに食べてもらおうと思って！

演劇部部长 （スパイをじろじろ見る）何お前……。

スパイ （ちよつと嘘盛り過ぎたか……？）

演劇部部长 めっちゃイヤいやつじゃん！（チョロイ）

演劇部部长、スパイ、たこ焼きを食べようとする。と、そこへ演劇部2年が登場。

演2年 先輩どうしよう大変なことが！

硬直する演劇部部长とスパイ。演劇部2年生、すごい形相で2人に近づく。怖い。

演2年 これはなんですかたこ焼きですかおいしそうですねもしかしていま2人だけでこのたこ焼きを食べようと

していましたか1人体育館で作業を続けている僕がいることを知っているながらもしかして（目がヤバイ）

演部長 後で持ってってやるつもりで……なあ。

演2年 （目がヤバイ）

スパイ （恐怖のあまり無言のままブンブンと縦に首を振ってる）

演部長 とにかく食おうぜ。腹減って限界なんだよ。

演2年 わーい。

3人、たこ焼きを分け合ってほおばる。しばし無言。

演2年 おいしくない。

スパイ ですね。

演部長 冷めてるしな。

演2年 こんな冷えて固まったたこ焼きはたこ焼きじゃない！（泣き崩れ、床をゴロゴロと転がりまわっている）

演部長 ……あ！（思いついて）ちよつと待ってな。

演劇部部长、借りパク山から電子レンジを持ってくる。

スパイ 電子レンジ。

演部長 （たこやきを電子レンジに入れながら）●●先生が去年貸してくれたんだよ。おばあさん入院してて使っていないからって。

スパイ いまも入院してるんですか？
演部長 まさか。とつくに退院してるよ。

間

スパイ 返さなくていいんですか？
演部長 おばあさん施設に入ったらしくて、結局返せって言われてないんだよね。

ちーん。

演部長 できた。

スパイ （演2年に）先輩、できましたよ！

3人、熱々のたこ焼きを頬張り、おいしそうに食べる。

演2年 あちち……（はふはふもぐもぐ）おいしい!!

演部長 あーうま。

演2年 生き返りますねえ。

スパイ 本当ですねえ。

演部長 ●●先生のおばあさん、ありがとう。（天に向かって手を合わせる）

演2年・スパイ （天に向かって手を合わせる）

間

演部長 （我に返り）いやまで、死んでないな。

演2年 まだ生きてますね。

スパイ 縁起でもないなあ。

3人、わいわい言いながら残りのたこ焼きをおいしそうに食べている。

演2年 結局今年もこんな時間になっちゃいましたね。（時計を見る）

演部長 まったくだぜ。

スパイ 大変なんですネ。裏方って。

演部長・2年 （勢いよく）そうなんだよ！

演部長 こっちは朝から死に物狂いで働いてんのにさあ。

演2年 僕らのこと奴隷だと思ってるんですよ。キイイ！

スパイ そういえば、演劇部は出ないんですか？

演2年 出ないって？

スパイ ステージ発表。演劇部なのに。

演2年 ああ。

演部長 前は出てたんだけど……まあ、いろいろあって。文化祭では裏方に徹して体力温存しようってなったんだよ。

大会準備もあるしな。

スパイ 来月でしたっけ、大会。

演部長 そうそう。だからほんと時間ないんだよ。

演2年 そうそう。だから早く脚本あげてくださいよ。

演部長 （無視）

演2年 先輩！

演部長 降りてこないんだよ！ 創作の神が！

演2年 神の降臨なんて待ってたら間に合いませんよ。とにかく初稿を……。

演部長 （耳をふさいで）あーあーあー。

演2年 ちよつと先輩！

演部長、おいてあるスピーカーの箱に気づく。

演部長 あ。

演2年 先輩。

演部長 おい。

演2年 なんですか。

演部長 （にやにやしながら指をさす）

演2年 は！ これは……！

2人慎重に、そしてじつくりと舐めるように箱を眺める。ちよつと怖い。

演2年 先輩！

演部長 おう！

演2年 ついにきましたね！

演部長 ついにきたな！

演部長・2年 我々の最新スピーカー！

演劇部部长と2年生は大はしゃぎ。スピーカーの箱の周りで小躍りしている。

演2年 ではさつそく体育館へ運びま……。 （汚れた手のまま、箱に触れようとす）

演部長 こらーっ！（演劇部2年を激しく殴り飛ばす）

演2年 あうっ！（吹っ飛ばす）

スパイ ええええ。（啞然）

演部長 汚れた手で触るんじゃねえ、バカタレエ！

演2年 （頬を押さえながら）ももも申し訳ありません！

演劇部部长、借りパク山のふもとからウェットティッシュを出してきて、丁寧に手を拭くと、スピーカーの箱を妙に艶っぽい手つきでなで始める。

演劇部長 ぬふふ。はああ。（至福）ついに私たち専用のスピーカーを手に入れたのよ。オーツホツホツ！（激しく高笑いしすぎてちよつとむせる）

スパイ 「アタシたち専用」？ これ生徒会が注文した体育館用のスピーカーじゃ……？

演劇部長、2年生視線を交わして悪い顔で笑う。

演2年 このスピーカー、文化祭終わったら演劇部がもらうんだよ。

スパイ そうなんですか？

演劇部長 これは、我らが伝説の「キラキラ先輩」が残してくれた栄光の証！

謎のBGM。なんだかミュージカルの前振り感。

演劇部長 ……長年文化祭で奴隷労働を強いられてきた演劇部。そこに一石を投じたのが……『キラキラ先輩』だった！

音楽が高揚していく。

演劇部長 （ミュージカル調でキラキラ先輩を演じる）「待ちたまえ、君たち。こんなことをいつまで続けるんだ！ ざ立ち上がれ！ そしてつかみ取れ！ 自らの権利を！」

なんだかよくわからないが、何となく大盛り上がり。演劇部2年生は盛大に拍手&スタンディングオベーション。

演2年 ブラヴオー！

スパイ はあ。（呆気にとられている）

演部長 （普通に戻って） かつこよかったんだよ。「報酬がなければ私たちは手を引かせてもらう！」って。スパイ でも。

演部長・2年 ん？

スパイ 文化祭予算で買ったものを演劇部がもらうっていうのは、「業務上横領」ってことになるんじゃないや。

演2年 おおおお横領？

スパイ 報酬がなければっていう話も、一種の「脅迫」のような……。

演2年 きよきよきよきよ脅迫？

演部長 何言ってるんだよお前！

スパイ （鋭い視線で二人をしばらくみつめてから、パツと普通の調子に戻って） なんて。

演2年 びっくりさせないでよう。

演部長 急に探偵みたいな口調になって。

スパイ でも、これまではどうしてたんですか、スピーカー。

演2年 放送部に借りてただけけど、あそこ顧問代わって急に「返せ」って。

演部長 「必要なら自分たちで買ってください」……いやいやそんなお金どこにもありません。

演2年 部費少ないですもんね。

スパイ でも、もらえるだけありがたいですよ。

演部長 お前さ、芝居創るのにどんだけ金かかるか知ってる？ 毎年毎年部費減らされてまともなやり方じゃ生き残れないって。いろいろ工夫しながら自助努力でやってくしかないわけよ。

演2年 いろいろ借りパクしまくってね。（借りパク山を見上げる）

演部長 そうそう。（借りパク山を見上げる）

借りパク山はやっぱりうず高くそびえたっている。

演部長 てこら。

演2年 え？

演部長 借りパクじゃない、「ちよっと拝借」だ。

スパイ 「ちよっと拝借」。

演部長 返せって言われたら返すし。

演2年 返せって言われないから返さない。

演部長 いいか。必要としている人間が、必要とするものを手に入れられない。しかしその一方で、さして必要としないくせに、必要以上のものを手にしている人間がいる。（街頭演説をする若い政治家のように）おかし
いと思わないか。この世は不条理にあふれている。

スパイ はあ。

演部長 （素に戻って）まあ、つまり、持つてはいるけど使ってないって人から借りてくる。これはほら、サステナ

ブルな取り組みだよ。

演2年 SDGs。

演部長 （演2年に）それだ。

演部長・演2年 （スパイに）ウェーイ。

スパイ んん？（なんか釈然としない）

演部長 あ、そういやおまえ戻って来た時、なんか「大変なことが」っていつてなかったっけ？

演2年 （きよんとんとしてる）あ！（思い出した）そうだ大変なことになっちゃって！

演部長 時間差で大変なこと聞くの勇氣いるな。

演2年 実は、さっきリハ中に照明が突然全部落ちちゃって。

演部長 はああ？

演2年 電源はすぐ戻ったんですけど……。

演部長 けど？

演2年 先輩、心の準備はできていますか。

演部長 いや待て。どの程度の心の準備が必要なんだ。

演2年 どうか落ち着いて聞いてください。

演部長 落ち着いて聞ける要素が何もないし何なら今日イチで不安しかないんだけど。

演劇部2年、口を開きかけていったんやめて、借りパク山からサンドバッグを持ってくる。

演2年 予期せぬ電源断で、サンプラーに保存していた音源が全部消えました。（サンドバッグを差し出す）

演劇部部长、獣のような叫び声をあげながら、サンドバッグを殴り倒し蹴り倒し、ひとしきり大暴れして、最終的にその場に膝から崩れ落ちる。

スパイ （恐る恐る）どのくらいの音源入ってたんですか？

演2年 114。

スパイ、絶句。演劇部2年生も膝から崩れ落ちる。お通夜のような空気。

【8】同情じゃないから

副会長と生徒会1年生戻ってくる。

副会長 とにかく生徒会長と連絡取れないことにはどうしようもないから。

生1年 すみません。（まだ泣いてる）

生徒会2人は、演劇部3人の異様な様子を見てびっくりする。

副会長 え、なに？ お通夜？

スパイ とんでもない事実が発覚して。

副会長 「とんでもない事実」？ はっ！（スピーカーの箱を見る。もしかしてスピーカーが紛失していることを気づかれたのか！ しまった！ 箱を置いていくんじゃないか！ いや、ちょっとまって、これには深い事情が！

ダンス同好会リーダー登場。

リーダー ちよっと！ いつになったらリハ再開してくれんの！（室内の異様な状況を見て）え、なに？ なんかあったの？

副会長 何でもないの。ちよっとと予定外の事情が出てきて。

スパイ 機械に入れてた音源データが全部消えてしまったらしくて。

副会長 え？ データ？（なんだ、スピーカーの事じゃなかったのか）

リーダー 大丈夫なのそれ。

演部長 大丈夫なわけあるかアア！

リーダー なんで私が怒られなきゃなんないのよ！

演2年 あんたらのわがままで灯体増やしたせいで電源容量オーバーしたんだろうが！

リーダー 知らないわよそんなの！

演劇部部长と2年生、ダンス同好会リーダーがギヤアギヤア言い合いをしている。

副会長 とにかく！ いったん落ち着いて！ とりあえず、その音源をもとの状態に戻すことはできるの。

演2年 いまからですか？

演部長 本気かよ。

副会長 それしかないでしょう。

演部長 こればかりは無理。

リーダー やってくれないの。

演部長 無理。

リーダー お願い。

演部長 それをお願いする態度かよ。もう限界。あきらめな。

出て行こうとする演部長の前にリーダーが立ちはだかる。

演部長 は？ なに？ どけよ。

リーダー（涙声で）お願い。これが最後のステージなの。

演部長 そんなのアタシらには関係ないし。

リーダー、いかにもいじらしい感じで涙を浮かべている。

副会長（演部長に）ねえ、私からもお願い。

演部長 はあ？

副会長 ダンス同好会立ち上げてから一度も大会に出られてないんだよ。3年間で一回もだよ。あんまりじゃない。こんなに頑張ってるのに。だから、せめて文化祭公演くらい最後に……。

演部長（リーダーに）お前さ、泣けば同情してもらえるか思ってたんだろ。

副会長 ちよっと。

演部長 お前、得意だもんな。そうやって不幸アピールして、周りを味方につけるの。まるでこつちが悪者みたいじゃん。

副会長 なんて言い方するの。

演部長 むかつくんだよ。そうやって自分たちはかわいそうだから同情されて当然って態度がさ。

リーダー、演劇部部长に近づく。無言。

演劇部 なに？ なんか言いたいことがあるなら……。

リーダー、演劇部部长を突き飛ばす。

演部長 は？ てめえなにすんだよ！

演劇部部长とリーダー、つかみ合いのケンカ。周囲は止めに入る。

副会長 ストップストップ！

演2年 さすがに殴り合いはまずいです！

スパイ 相手けが人ですよ！

副会長 もう！ よしなつてば！

4人がかりで演劇部部长とリーダーを引き離す。

リーダー そうだよ。

演部部长 あ？

リーダー お前の言うとおりでよ。

演部部长 あ？

リーダー 私たち、カワイソウだから。みんな勝手に優しくしてくれんの。勝手に同情して、勝手に……。みんな自分より不幸な人間に施し与えたいだけなんだよ。そういうの、利用して何が悪いわけ。

副会長 えええ。（驚きと裏切られた気持ちで間抜けな声）

演部部长 （鼻で笑って）認めたよ。（副会長に）こいつはこういうやつなんだよ。

副会長 えええ。（また間抜けな声）

リーダー （苛立たし気に）むかつくんだよ。

副会長 えええ。（さらに間抜けな声）

リーダー （さらに苛立たし気に）わかんないよねえ。毎回毎回、「ありがとうございます」「助かります嬉しいです」つってヘラヘラ愛想振りまいて尻尾振って喜んでみせて。そうやって、どんどん自分が惨めになってく。でこつちがなんか言ったら「やってもらつといて凶々しい」とか「感謝が足りない」とか。じゃ私らいつまでお前らにヘコヘコしてなきやいけないわけ？ インフルだの事故だの、別に私らだつて好きでこんな状況になつたんじゃない。それなのに「やってもらえるだけありがたいと思わなきや」とか「感謝の心を忘れるな」とか、親にも先生にも言われて。ウルセーなんだよ。クソ腹立つてくんだよ。私ら、誰かに感謝するために活動し

てんじゃねえんだよ。（自嘲的に笑いながら）……腹立ちすぎてき、もう逆に、むしり取れる分、むしり取ってやろうと思って。不幸アピールしまくって。遠慮なんかしてたまるかよって。

演部長 根性ひん曲がり過ぎだな。

リーダー 自分の意地汚さで吐き気するわ。なんで私こんな……（立ち上がろうとするが、骨折しているせいでうまく立てない。言葉に詰まってる）普通に踊ってたかった。……みんなと踊りたい。

沈黙。スパイ、リーダーの姿を見て、かける言葉が見つからず、立ちすくんでいる。副会長は気づかわし気にリーダーに近寄る。

スパイ あの……。

リーダー（遮るように）みんなに説明してくる。

スパイ あ……。

演部長（頭をガシガシかきながら）あーもーっ！（スパイに）おい。職員室行って〇〇先生にPC借りて来い。

スパイ え。

演2年 まさか、やるんですか。

演部長（ため息）死ぬ気でやりやなんとかなるだろ。

副会長（リーダーに）よかったね。

リーダー（不愛想に）別に……。

演部長（遮るように）別に同情じゃないから。貸しとくだけだから。今度うちが人手足りない時はお前らに手伝ってもらおうからな。

リーダー（演部長としばらく目を合わせて）……覚えとく。

演部長 こき使ってやるから覚悟しとけよ。

演2年 もー、結局割りを食うの僕たちなんだから。（スパイに）ねえ。

スパイ ……。

演2年 どうしたの？

スパイ え、あ、いや……。

演部長 ま、今回はしゃーないってことで。アタシらはほら、もうすぐアレも手に入るしな。（スピーカーの箱をちらりと見て）

演2年 まあそうですね。（箱を見る）

副会長 あ。（スピーカーのことを思い出した）

演部長 なに。

演2年 じゃあとりあえずコレ、体育館運んじやいますね。（スピーカーの箱を持ち上げて、フリーズ）

副会長 ちよつとまって！

演劇部2年、持っていたスピーカーの箱を落とす。

演部長 ギャーッ！ バカお前何やって……。

演2年 先輩、これ……。

演劇部部长、箱の中身が空っぽであることを確認する。

演部長 は？

全員硬直。副会長はひとり天を仰いでいる。

演部長 はああああ？

副会長 いやごめんこれには深い事情が……。

演部長 （副会長に詰め寄る）アタシらのスピーカーどこにやった！

副会長 それは私たちの方が聞きたいってどうか。

演部長 舐めたこと言つてつとコンクリ抱かすぞゴルア！

生徒会1年生再び大泣き。

【9】不審者を捕まえる

ダンス同好会のメンバーと新聞部が騒ぎながら登場。後ろから元生物部もこっそりついてきている。

ダンスA リーダー！ 大変大変！

リーダー どうしたの？

ダンスB 見てこれ！

全員で脅迫文を覗き込む。しれっと扉の所で元生物部が様子を除いている。スパイそれに気づく、スパイと元生物部「なんで戻ってきたんだ」「みてみてあれ、俺が書いた脅迫文」「見つかつちやうよ」などジェスチャーでわちやわちややってる。スパイは元生物部が見つからないように、借りパク山に押し込む。

リーダー 「我がハナオカ高校の崇高な理念は、邪な心におかされし強欲な人間に穢されてしまった。この腐った者どもに正義の鉄槌を下さねばならない。悪は必ずや滅びるのだ」

間

演2年 中二病。

副会長 中二病だ。

リーダー 中二病ね。

演部長 中二病だな。

元生物部ショックを受けてる。

副会長 いや、そんなことより、これ、犯行声明！

リーダー これどこにあったの。

ダンスC 落ちてたんだよ。

ダンスA ステージサイドに。

ダンスB さっきの停電もそいつの仕業なんじゃないかって話してて。

演2年 スピーカーもそいつに盗まれたってことじゃないですか！

新聞部 なになになんですかスピーカー盗まれたって！

演部長 ゆるさん、アタシの愛しのスピーカーを。

スパイ （焦りながら）あの、もしかして、犯人、まだ体育館にいるんじゃないですかね！

副会長 確かに。

演部長 おい行くぞ。

演2年 はい！

全員がぞろぞろと部室から出て行こうとしたところ、借りパク山に隠れていた元生物部、うっかり山の一部を崩してしまい、大きい物音を立ててしまう。

演部長 なんだ？

スパイ あ！（先輩のバカ！）

演部長 なんかいのか……？

スパイ かかかか、風かなんかじゃないですか。

演部長 ばかいえ、ここ窓ないんだぞ。

副会長 （部室を見回し）確かに。

演劇部部长、借りパク山に近づいていく。スパイ「先輩が捕まっちゃう」と焦っている。元生物部も借りパク山の陰で右往左往している。

スパイ （元生物部が捕まってしまうと思い、たまらず声を上げる）あの！

スパイの声とほぼ同時に、借りパク山のふもとのグラクタの陰から、突然、オカルト研究会がスピーカーを抱きかかえて飛び出す。一同突然の登場に驚き叫び声をあげる。

演2年 ぎゃー！ 変なの出てきたー！

演部長 なんだこいつ！

オカルト研究会は逃走を図ろうとするも、逃げ場がなく、周囲と距離をとりながらスピーカーを抱えたままでジリジリしている。

リーダー ちょっと、あいつが持つてるのって……。

演2年 スピーカーだ！

副会長 あいつが窃盗犯ってこと？

演2年 この部屋に隠れていたんなんて！

演部長 なめた真似しやがって。

演劇部部長の鋭い眼光に思わずビクつくオカルト研究会。ジリジリと迫る一同。オカルト研究会、突撃してくると見せかけて、スピーカーを放り投げて走り出す。

演2年 ぎゃー！ スピーカーが！

演部長 テメエなにしやがる！

演劇部部長、2年すんでのところでスピーカーをキャッチ。

副会長 そっち！

リーダー 逃がすか！

オカ研逃げ回り、みんなで追いかける。なぜかいつのまにか元生物部も加わり、全員総出のドタバタ捕り物劇。新聞部はひたすら写真を撮っている。オカ研取り押さえられる。

新聞部 スクープだわあ。

演部長 まさかこの部屋に潜んでいたとは。

元生物 気付かなかったぜ。

演部長 驚かせてくれるぜ……（元生物部を見て）ん？

元生物 え？

全員フリーズ。スパイは「先輩何やってんだよ」と焦っている。

演部長 不審者だ！

副会長 捕まえる！

再び捕り物劇。元生物部、スプレー缶が入ったビニール袋を投げつける。

演部長 （袋の中身を見て）スプレー缶に

副会長 脅迫のビラ！

演部長・副会長 部屋荒らし！

新聞部 盛り上がったー！

元生物部に気を取られてるあいだに、オカルト研究会はすりと逃れ、スパイを人質にする。

スパイ うわー！

新聞部 人質を取って立てこもり！
演部長 一体要求はなんだ！

オカルト研究会、何か叫んでいるようだが声が小さくて聞こえない。

演部長 なんて？

スパイ 「コイツの命が惜しければ、明日のステージ発表を中止しろ」だそうです。

演部長 声ちっさ。

元生物 やめろ！ そいつを解放してくれ。

リーダー あんたたち共犯じゃないの。

元生物 え？

リーダー え？

スパイ （やばい先輩がまたまずいこと言うぞ）あああああ！

スパイ そそそ「そいつを解放して、こちらに引き渡せ」だそうです！（「余計なことを言うな」と必死に元生物部に

目で訴える）

新聞部 「仲間の解放を要求」！

元生物部はいそいそとオカルト研究会側に移動する。

元生物 （スパイに）大丈夫か。もう心配しなくていいぞ。

スパイ （小声で元生物部に）余計なこと言わないで。

元生物 （スパイに）なにどうということ？

オカ研 （きよろきよろおどおどして、スパイに質問してる）

スパイ だから、

演部長 なんかもめてないか。

リーダー 仲間割れ？

スパイ なんでもないです、こっちの話です。（思わず素で答えてしまったのでごまかすように）……と言ってます。

副会長 （元生物、オカ研を見ながら）んんん……？ 思い出した！ あなたたち、たしか同好会のひとじゃない？

演部長 同好会？

副会長 （オカ研に）なんだっけ……すごい……なんか……マイナーで……あやしい……

スパイ （耳元で聞いて）「オカルト超常現象研究会」だそうです。

一同 ああ（つぶい）。

元生物 （これ見よがしに白衣をひらめかせながら前に進み出る）

副会長 （元生物部に）……化学！

元生物 生物！

副会長 おしい！

元生物 おしくない！

新聞部 （挙手）質問をよろしいですか。

元生物 どうぞ。

新聞部 あなたたちの目的は何ですか。

元生物 文化祭ステージ発表の即刻中止！

ダンス同好会一同ブーイング。

副会長 ステージ発表にいったい何の恨みがあるの。

スパイ （スパイの声を耳元で聞いて）「ステージ発表の企画書を持って行ったのに、生徒会に門前払いされた」と言っています。

「お前もか、同志よ！」と元生物部とオカルト研究会、熱い握手を交わす。

リーダー つーか、オカルト研究会がいったいどんなステージ発表するのよ。

オカルト研究会、持っていた分厚い企画書を見せる。

新聞部 「米水湖に生息する未確認生物ベツシーに関する研究」

全員顔を見合わせ、「やべえのきたな」という反応。

リーダー よくこれでステージ発表行けると思ったわね。

一同 「これはないな」「ないない」などと口々に。オカ研殺気立つ。

元生物 わー！ よせよせ！

スパイ 「たかがオカルトと見下して、ステージ発表から締め出しやがって」と言っています。

元生物 俺たちだって、企画持ち込んだのに内容も見ずに突き返されたんだぞ。

演部長 いやいや、お前らのそんな発表誰も見たくねえし。

元生物 んだと、こいつらのへたくそなダンスこそ誰も見たくねえわ。

ダンス一同 はああ？

副会長 いや、内容がどうこうじゃなく、今年からステージ発表は部活動優先で、同好会の皆さんには展示発表のスペースを使ってもらって……。

元生物 ダンスだって同好会だろ！

副会長 ダンス同好会は特殊な事情があつて。

元生物 そんなの不公平だろ。

演部長 めんどくせーな。同好会は同好会らしくおとなしく展示発表でもしてろ。

元生物 ああ？ てめえ、同好会同好会うるせーんだよ、おまえらだって部活動名乗る資格はねえからな。

演部長 ははあ？

元生物 知ってるんだぞ。貴様ら演劇部は亡霊部員を何人も……。

スパイ 幽霊部員。

元生物 幽霊部員を何人も登録して部員数を水増してる！
リーダー せこ。

新聞部 どういうことですか。

演部長 言いがかりつけてんじゃねえよ。

元生物 しらばっくられても無駄だからな！ おい！ お前からも言ってみてやれ！（スパイに）

一同、スパイを見る。

スパイ え？

元生物 お前だって憤ってただろ、こんなのは不正だって。

スパイ あ、えっと。

元生物 お前、俺との約束忘れちゃったのかよ。

スパイ いや、ちよっと……。

元生物 一緒に生物部復活させようなって2人で誓ったじゃねえか。

スパイ あ、いや、これは……。

元生物 お前は、河原で見たあの日の夕陽を忘れちゃったっていうのかよ。

スパイ これは、その。

元生物 そんなのってないぜ。なあ！

スパイ だあああ！ もう！ めんどくせえな！ あんたいちいちそういうキラースペース回してくんのいい加減にし

ろよ！ 毎回フォローするこっちの身にもなってくれよ！ バカじゃないの！ 忘れるわけないじゃん！

あの日の誓いは俺たちの絆なんだよ！

元生物 （キュン）

突然のことに驚く一同。

スパイ （一同の驚きの表情をしばらく眺めてから、顔を手で覆いながらしやがみ込む）……やってしまった。

演部長 お前、グルだったのか。

演2年 嘘でしょ。

スパイ （2人の落胆ぶりを見て申し訳なさそうに）これは……その……すみません。僕は……。

元生物 そうだよ。こいつはなあ、校内にはびこる不正を暴くべく、演劇部に潜入していた生物同好会のスパイだっ

たんだよ！

演部長&2年 なななんだってー！

元生物 まんまと騙されやがって、いい気味だぜ。

演2年 ええ、う、嘘だよね、後輩くん……。

スパイ （申し訳なさそうに）すみません。

演部長 マジかよ。

元生物 さあ、潜入中にお前がつかんだ、こいつらの不正の事実を話してくれ。

演部長 （鼻で笑って）不正って。

元生物 （スパイに）さあ。

スパイ ……演劇部は、普段活動に参加していない生徒を名簿に記載し、部員数を実際より多く申告しています。

演部長 ば、おま、そりゃ、たまにしか参加できなくても、アタシらにとつて、かけがえのない仲間なんだよ！

新聞部 たまに、とは？

演部長 それはその、大会の時にその、ちよろーつと来てもらってえ……。

新聞部 明らかに部活動資格保持のための不正申告ですね。

元生物 俺たちをバカにしてんのか！

ブーイングが起こる。

元生物 ほかにもあるんだろう。

新聞部 そうなんですか。

スパイ あ、えつと……。 （スピーカーを見る）

全員の視線がスピーカーに集まる。

演部長・副会長 あ。(やべ)

スパイ 副会長さん。今回盗まれたスピーカーは文化祭予算で購入したもので、ですよ？
副会長 そう、そうです。

スパイ では、このスピーカーが、文化祭終了後に演劇部へ譲渡される、という話は本当なんでしょうか。
リーダー はあ？ なにそれ。

新聞部 事実なら大問題ですよ。

演部長 何がいけないってんだよ。

新聞部 文化祭予算は全生徒から徴収したお金ですよ！ 特定の部の備品を買うためのものではありません！

演部長 これは労働の対価だよ！

演2年 僕らがこの2日間だけであんたたちにこき使われてきたと思ってるんですか。後輩くん。後輩くんだって

そばで見てたでしょ。僕らの過酷な労働環境！

スパイ それは……。

ダンスB 学校行事で報酬貰う方がおかしくない？

ダンスA 確かに。

元生物 演劇部は毎年部費もらってるんだろ！

演部長 部費だけじゃ足りないんだよ！

リーダー 同好会は部費自体もらえないのに、贅沢言わないでよ。

ダンスC そうだそうだ！

ダンス同好会のメンバーたちも加わって、一同は口々に抗議の声を上げている。

元生物 俺らを廃部に追いやっておいて、お前らだけ甘い汁吸いやがって！（スパイに）お前だって許せないだろ！

俺たちはなんのために活動の場を奪われたんだよ！ なあ！

スパイ （ぐっと抑えるように）……副会長さん。昨年度から部員人数の規定が厳しくなったのは、「予算の公平な分

配のため」だと聞いています。

副会長 ……そうです。

スパイ では、「文化祭予算」で購入したものが、特定の部の備品として流用されることは、「公平な分配」なんですよ。か。

副会長 それは……。

スパイ 納得いく説明を求める権利が、僕らにはあると思います。

同好会一同、「そうだそうだ」と騒ぐ。

副会長 （同好会たちの鋭い視線を受けて）みなさんのおっしゃる通り、文化祭予算で購入したこのスピーカーの所

有権は生徒会にあります。

演部長 話がちがう！

副会長 （演劇部部长をなだめながら）ですので、演劇部に対してはこのスピーカーは貸し出しの形で対応します。学校の行事期間以外に貸し出す分には問題ないと思います。

オカルト研究会がおもむろに挙手する。

新聞部 え、なんですかオカルトさん。ふんふん。（耳元で聞いて）えええ！ 演劇部は借りパク常習犯。そのまま借

りパクするつもり」ですって！

演部長 借りパクじゃねえし。

演2年 「ちよつと拝借」です！

新聞部 借りパクの前科がある演劇部に貸し出すことは問題じゃないんですか！

元生物 悪質すぎる！

新聞部 演劇部は部活動資格自体が問われるべきではありませんか。

元生物 そうだそうだ！ 部活動資格剥奪すべきだ！

そうだそうだ、と一同が騒ぎ立てる。演劇部は針のむしろ状態。

副会長 私では判断できません。生徒総会でみなさんの意見を聞いたうえで、適切に判断させて頂きます。

演劇部部長が置いてあったものを蹴り倒す。一同驚いてシンと静まりかえる。

演劇部部長 （低いトーンで）ふざけんよ。大会準備の時間削って、朝から晩まで働かされた挙句、この扱いかよ。なんでアタシらがそこまでやんなきゃなんねえんだよ。自分らの発表もないのに！

副会長 演劇部は自分で発表取り下げたんでしょ。

演劇部部長 「演劇部だけ60分なのはズルイ」「演劇部の発表はいらない」

副会長 え？

演劇部部長 新聞部のアンケート。一昨年生徒総会で取り上げてただろ。（ぼかんとしてる周囲を見て）覚えてすらないのかよ。ふらふらになりながら、それでも踏ん張って、必死でつくった作品に、なんでそんなこと言われなきゃなんねえの。アタシら、文化祭準備するために演劇部やってんじゃないんだよ。芝居作りたくて演劇部やってんだよ。……こんなの、報酬でもなきゃやってらんねえよ。

演劇部部長、声を殺して泣いている。演劇部2年生も泣いている。

スパイ （演劇部部長に）先輩……。

元生物 でも、それとこれとは別っていうか。なあ。

オカ研 （頷いている）

同好会たち、再び、演劇部の不正を非難し始める。

【10】ゴキブリアタック

スパイ あの。演劇部の部活動資格剥奪って、さすがにやり過ぎじゃないですかね。

元生物 なんで急に演劇部の肩もつだよ。

スパイ 肩持つとかじゃなくて。

元生物 ずるしたのは演劇部だろ！

スパイ そういうことじゃなくて。

元生物 俺より演劇部の方がすきになっちゃったのかよ！

スパイ 先輩落ち着いて！

元生物 やだやだそんなの認めない！

リーダー なにこれ痴話げんか？

元生物 ゆるさん演劇部！ こうなったらプランCだ！

スパイ プランCはやらないって約束したじゃないですか！

副会長 プランCってなに。

元生物部、借りパク山の裏に行き、リュックの中からゴキブリの入ったケースを出してくる。

スパイ 先輩、待って！

リーダー あの中何入ってるの。

スパイ 「デユビア」です。

副会長 「デユビア」？

ダンスB なにそれ。

リーダー なんか黒いもの見えるんだけどあれって……。

元生物 （なんか泣いてる）全部ぶち壊してやる！（ケースのふたを開ける）

スパイ 早まらないで！

ダンスC （携帯で検索してる）あ。

ダンスA なに？

ダンスC 「デュビア」

副会長 なんかすごい嫌な予感するんだけど……。

ダンスC 「爬虫類の生餌としても人気が高い」

リーダー うそでしょ……あれまさか……。

ダンスC 「別名アルゼンチンモリゴキブリ」

一同、絶叫。

スパイ 止めて下さい先輩！

リーダー 馬鹿なまねはやめなさい！

元生物 お前だつてわかつてるだろ！

スパイ 話し合いましょう！

副会長 やめて無理ほんと無理！

元生物 俺たちも、こいつらも、もう居場所なんかないんだ！

スパイ 先輩！

スパイ、元生物部ともみ合い。ケースがひっくり返る。中に入っていた無数のゴキブリが床を縦横無尽に走り回り、一同は絶叫を上げながら部室内を逃げ回る。さながら阿鼻叫喚の地獄絵図。大混乱のなか、何人かは持つていたものや近くにあるものをつかってゴキブリを退治しようとする。

スパイ 止めて下さい！ こいつらに罪はないんです！ 先輩、なんてひどいことを！

元生物 お、お前らが悪いんだ……俺は……俺は……。

演劇部2人は持っていたQシートでゴキブリを叩き潰す

スパイ （絶叫しながら）やめろー！

スパイの悲痛な叫び声に一同一瞬フリーズ。

スパイ よくも俺の大切なデュビアを—————！！

スパイ、借りパク山に刺さっている小道具の刀を引き抜くと、怒りに任せて刀を振り回して暴れ始める。一同逃げ回る。演劇部部长、躓いて転倒。スパイはそこに刀を振り上げる。部長絶体絶命！と思われたところで、リーダーが立ちはだかり、松葉杖を使って応戦。リーダーの鋭い一太刀で、スパイは持っていた刀を振り落とす。

スパイ ちくしょう、ちくしょう、ちくしょ—————！！

捨て身で向かっていこうとするスパイを、元生物部が抱きとめる。

スパイ はなせえ！

元生物 すまない！俺が間違っていた！

何かよくわからないが号泣しながら抱きしめる元生物の腕の中で、スパイはさめざめと泣いている。部室内にはカオスな雰囲気漂ってる。

演2年 はっ！せ、先輩、ゴキブリつぶしちゃったけど……これ……。

演部長 げっ！

演劇部2人は持っていたQシートを床に落とす。ゴキブリをつぶしたせいで、Qシートは見るも無残な状態。

副会長 大丈夫？

リーダー どうしたの。

演2年 これ。

副会長 なに？

演部長 ダンス同好会のステージ発表の、Qシート。

リーダー は？

演2年 これなきや、操作、出来ない。

リーダー はあああ？

ダンスB うちの発表どうなんの。

リーダー 覚えてないの！

演部長 あんな数覚えられるか！

リーダー じゃあ、どうなるの。

演部長 あきらめるしかないだろ。

リーダー うそでしょ！

演2年 音源も消えて、その上Qシートもないとか、もう無理ですよ。

ダンス同好会一同、動揺。口々に不満を言い立てる。

ダンスA 最後のステージなの。

演部長 無理なもんは無理だから。

ダンスC 副会長！

副会長 何とかできないの。

ダンスB そうだよ。お願い。

演部長 無理。

ダンスC ひどい！

演2年 ひどいのはどっちですか。

演部長 スピーカーは使わせない、部活動資格は剥奪する、だけど明日のステージ発表の準備は徹夜でしてねって？

お前ら、アタシらを何だと思ってるの。

演2年 僕らはあんたたちの奴隷じゃない。

副会長 はあ、なんでこんなことに。

演部長 つかアンタがダンス同好会の要求ほいほい飲むからこんなことになってんだろ！ 全部丸投げでろくに仕

事もせずに、良いご身分だよな。

副会長 私だって、文化祭切り盛りで朝からずっと。

演部長 どうだか。

副会長 会長もいないし、なんで私が……。

演部長 はいでました、責任逃れ。

副会長 ちがう。

演部長 あっちにもこっちにも調子いいことばっか言って、都合悪くなったら生徒会長じゃないとって？ お前、ど

うせ内申のために生徒会入ったんだろ。お前こそ生徒会やめた方がいいんじゃないやねえの。

演劇部に詰め寄られ、副会長が過呼吸で倒れる。重たい空気。ダンス同好会は、悔しそうに泣いている。

ダンスA 悔しい。最後のステージだったのに。

ダンスC 公式大会あきらめなきゃよかった。

リーダー ごめん。私が骨折したせいで。

ダンスB リーダーが悪いんじゃないけど。悔しい。

ダンス同好会、慰めあいながら、泣いている。

元生物 でたよ。かわいそうアピール。うっぎ。

ダンスメンバー突っかかるようにするが、リーダーが制止する。リーダーは涙をこらえている。

元生物 その骨折だって、そういう演出なんじゃねーの。

ダンスA なんてひどいこと言うの。謝んなさいよリーダーに。

元生物 自分らだけが被害者ヅラすんじゃねーよ。いっとくけど、他の同好会はみんなステージ発表できなくて、最初から悔しい思いしてるんだからな。

ダンスA あんたの悔しいとこっちの悔しいはレベルが違うんだよ。

元生物 レベルってなんだよ。ひとのこと見下すのもいい加減にしろよ。

ダンスA 見下してなんかしないでしょ。

元生物 見下してんだろ。お前らのへたくそなダンスが、俺たちの研究よりどんだけ上だと思ってんだよ。

ダンス一同 はああ？

元生物 しょせんお前らの発表なんて自己満なんだよ。

再び不毛な言い争い。

スパイ もうやめませんか！

スパイの声に一同静まり返る。

スパイ もうやめませんか。……俺、楽しかったんですよね、中学の時。生物部。先輩が誘ってくれて。生き物の観

察とか、昔から好きだけど、クラスじゃそんな話できる相手いないし。

元生物 どうしたんだよ急に。

スパイ だから高校も生物部あるとここで選んだんですよここ。でも、来てみたらなんか生物部廃部になってるし。せ

っかく増やしたデュービアも親からは「気持ち悪いから捨てろ」って言われるし。

ダンスC 何？ 何の話？

ダンスB 全然わかんない。

スパイ わかんないよ俺も！……わかんなくなっちゃったよ。もう。ねえ。俺たちいま、なんでこんなことしてんの。先輩。俺たち、生物部復活させるんじゃないやなかったんですか。誰が悪いとか、ずるしてるとか、どンドン違

う話にすり替わっていった。わかんないんだよ。ねえ。俺たちいまどこに向かってんの。こんな続けて、いつか最後には誰かが喜ぶのかよ。……もう。やだ。

【11】ダンスブルコメディ☆ゴキブリ侍

副会長 「認め合い、共に生きる」

演部長 なに。

副会長 （吐き出すように）あー。全然だめだ。

演部長 なにが。

副会長 今年の文化祭テーマ。

全員顔を見合わせる。「そうだったけ？」「そうだったかも？」という反応。

副会長 まあ、みんな興味もないしね。

演部長 まあ。

副会長 皮肉だよ。全然ほど遠いし。私たち。

リーダー 世の中そんなきれいごとじゃないし。

副会長 いやまあ、そうなんだけど。

間

副会長 でも、「まだ実現できていない理想があるから、人は前に進める」。

演部長 （鼻で笑いながら）くっさ。誰の言葉それ。

副会長 生徒会長。

演部長 （吹き出す）何あいつそんな生徒会長っぽいこと言うわけ？

副会長 あの人もともと情熱系だから。

演部長 ああ。

生1年 うそだー。

演2年 そうでしたっけ。

副会長 だから、去年、「文化祭は生徒会の自己満」って言われたのが相当こたえたみたい。

演部長 ああ。アンケート。

副会長 でも、私は会長のそのことばは信じてる。

生1年 「まだ実現できていない理想があるから、人は前に進める」？

副会長 そう。「認め合い、共に生きる」。言葉はこんなに簡単なのになあ。なんでかな。

借りパク山に置いてあった棚が突然開く。中から生徒会長が現れる。突然のことに悲鳴が上がる。

生1年 生徒会長？

生会長 副会長！ 僕は！ 僕は嬉しい！ 君が僕の想いをこんなにも理解してくれていたなんて！

スパイ もしかしてずっとその中にいたんですか？

生会長 そうさ。

演部長 隠れすぎだろ不審者。

生会長 僕は今、感動している。

ダンスB （棚の中を覗き込む）なんか部屋みたいになってる。

生会長 僕がいない間も、決してその職務を投げ出すことなく、期待に応えてくれた。

ダンスA （落ちてたスナック菓子の袋を見つけて）何これ堅あげポテト？

演部長 あ、てめ。（生徒会長に殴りかかろうとするが周囲に止められる）

生会長 君を副会長に推薦した僕の目に狂いはなかった！

副会長 会長……。

生徒会長と副会長見つめ合い、感動っぽい雰囲気。

副会長 ……殺す。

襲いかかる副会長。

副会長 お前がいけないせいで私がどれだけ苦労したか分かっているかいや分からせてやる歯を食いしばれ。

わちゃわちゃしていると、突然、演劇部部长が空中に何かを書き始める。

演2年 は！先輩、きたんですか！ ついにきたんですね！

演劇部部长、目を見開き、空中に何かを書いている。

演2年 先輩、この紙に！ この紙に書いてください！ ペン！ だれかペン持ってませんか！

演劇部部长が紙とペンを渡し、演劇部部长はものすごい勢いで脚本を書き始める。

新聞部 これは一体どういう…。

演2年 し！ ついに神が下りてきたんです。

元生物 神？

演2年 創作の神ですよ！ いま先輩は、神に導かれて脚本を書いているんです！（興奮してる）

リーダー 空気読めないにもほどがあるでしょ。

新聞部 「ダンサブルコメディ☆ゴキブリ侍」

元生物 「水面に映る謎の影を追って」？

副会長 なにコレ。

演劇部部长 おい。芝居創るぞ。

リーダー は？ 何言ってるの。

演部長 芝居創るんだって！

副会長 いや、明日のステージ発表どうするのかも決まってないのに……。

演部長 だから創るんだよ！ 芝居！

副会長 え？

演部長 これからアタシらで芝居創るんだよ。明日のステージ発表はこれで乗り切る。

全員 は???

リーダー 何言ってるのあんた！ 頭おかしくなったんじゃないの。

演部長 まともな頭でこの状況打開できるかよ。いいかいまからアタシが脚本書くから、できたところから稽古していきな。

リーダー 誰がやるのよ。

演部長 全員。

一同 全員??!

元生物 全員って俺たちも入ってるの？

演部長 当たり前だろ。大丈夫。当て書きしておくから。

リーダー 当て書き？

演部長 （元生物部に半魚人マスクを渡しながら）お前は主人公に助けを求める半魚人だな。

元生物 半魚人?!

演部長 半魚人は、米水湖に暮らす水生生物の代表として、主人公に助けを求めにやってくる。と、そこに現れるのが（オカ研に）お前だ。お前は謎の巨大生物・ベツシーを操り、米水湖の生態系を破壊しようとする、ベツシーの男爵だ。

リーダー ベツシーの男爵？

副会長 ネーミングセンスよ。

演部長 主人公は……（スパイに）お前だ！

スパイ ええええ？

演部長 お前はかつて生き別れになってしまった愛しのゴキブリを探し旅をしている「ゴキブリ侍」。

副会長 生き別れになったゴキブリ。

演部長 （ダンス同好会たちに）冒頭はお前らのダンスで頼むぜ。今やってるダンスを調整して……。

リーダー ちよつとちよつと！

演部長 なに。

リーダー ソレ、本気でやるつもり。

演部長 あつたりまえだろ。

リーダー うまくいくわけないでしょそんな暴走した世界観！

副会長 全部盛り過ぎない？

演部長 お得感満載だろ。

リーダー 無理無理。

演部長 じゃあ諦めて明日の本番、中止するのよ。

リーダー それは……。

ダンスA やろう。

リーダー え？

ダンスA やろうよ。思ってたのとはちよつと……だいが違うけど、でも私は最後に、皆で踊りたい。リーダーも。

リーダー いや、私足が……。

ダンスB 最初のパートなら、松葉杖でもなんとかなるんじゃない？

リーダー でも。

ダンスC みんなでフォローするから。

リーダー みんな……。

演部長 さつきあんだけ動けてたんだから大丈夫だろ。

演2年 確かに。

リーダー うるさいな。

演部長 よーし！ ここからは時間との勝負だ！ さつそく稽古は始めるぞー！

全員 おー。

演部長 （恐い鬼演出家っぽく）声が小さい！ 明日本番だぞわかってんのかあ！ もう一回だ、腹から声出せ！

稽古はじめるぞー！

全員 おー！

オカ研 （誰よりも大きく）おー！

演部長 なんだお前！ いい声出るじゃねえか！

突然大きな声が出せたオカルト研究会をみんなで称賛しつつ、演劇部部长が仕切って、どんどん稽古が進んでいく。音楽とクロスしてやがてサイレント。照明が切り替わり、いつの間にかそこは本番のステージ上。音楽に合わせて、ダンス、研究発表、芝居が融合した謎のパフォーマンス。訳が分からない。自分の存在を訴えるように、鬱屈をぶつけるように、ひとり、またひとりと、音楽に合わせて足を踏み鳴らし始める。やがて音楽が途切れると、自分たちの中に溜まり続けてきたなにかを吐き出すように、全員が雄たけびのような叫び声をあげる。顔を上げると、それぞれの目に映る景色は、以前よりほんの少しだけ、まじに見えた気がした。

幕

（この脚本は「第四十二回 山口県高等学校演劇大会」で上演した作品を、「第十三回ふくやま高校生春の演劇フェスティバル」での上演のためにさらに加筆したものです）